



タレント

# Matirog (マティログ)

●マティログ  
1978年4月23日生まれ。秋田市生まれ。1997年4月から約10年間、埼玉県内でイベント企画・音楽活動・ライブ活動・司会業などを行う。2007年10月、秋田にAターンし地元に根ざした活動をスタート。シンガーソングライターとしても勢力的に活動を行っており、また、さまざまなジャンルのイベントMCもこなす。特技は、にんにく料理とアサリの砂抜き。出演番組／ABSラジオ「ごくじょうラジオ」、エフエム樺太「午後スタ」、秋田ケーブルテレビの番組「Matirogのザ・チャレンジ」「こちらカラフル情報雑貨店」など。  
ウェブサイト <http://matirog.com>

## 三度の飯も大切だけど 「のむ“トマト”」がかなり好き



私は、トマトジュースに目がありません。

濃縮還元よりも、ストレート。最近は、塩が入っていないタイプの物もありますが、塩入りの方がトマトの味が引き立つので好きです。一日酔いの朝などは、冷蔵庫で冷やしたトマトジュースを、錢湯から上がった男性が片手を腰にあててビンの牛乳を気に入り干すのと同じスタイルで、グビグビと飲み干します。すると、胃腸が喜ぶ喜ぶ！前日のお酒が嘘のよう。

トマトそのものも勿論大好きで、サラダやパスタなどの材料として使ったり、夏の

暑い日は、水水でキンキンに冷やしたトマトを、塩をかけて丸かじり。余りに勢いよくかぶりつくもんだから、子どもの頃、母親からは「汁がこぼれるから、流し台の上

で食べなさい」とよく注意されたものです。

そんな私が、最近出会い、以来ハマっているのが、JA全農あきたさんで作っているトマトジュース、その名も「秋田県産“のむ”トマト」。秋田県産の完熟トマトを100%使用しており、一袋につき、トマト2個分をギュッと搾ったものがそのまま袋に入っています。私はだいたい朝起きたら一番に飲

た、お中元・お歳暮に贈られる方もいらっしゃるようです。

これからさらに多様化する国際化社会の中で、日本の農業のあり方が今問われています。特に秋田県にとって農業は、県の未来を大きく左右する、大切な柱の一つです。価格競争で勝ち目がないのなら、品質志向・本物志向へ切り替え、「秋田県産“のむ”トマト」の例にあるように、「ちゃんとした物をちゃんと届ける」ことを信念をもつて続けていけば、秋田の農業、延いては日本農業の未来は明るいと私は信じて

いますが、一口飲んだその瞬間に、秋田の大地で育った真っ赤な恵みが、口いっぱいに広がります。とつても濃厚な「当たりで、ジュースというより「トマトを飲んでいる」感覚です。食道を通っているとき「栄養がたくさん詰まってるぞ！」というのを体で実感できます。完熟トマトだけを使用しているだけあって甘さもあり、これまでトマトジュースが苦手だったという人でも、これなら美味しく飲めるのではないかでしょう。私はまだ試していないのですが、スープ料理の材料としても使えるようです。また、お中元・お歳暮に贈られる方もいらっしゃるようです。

これからさらに多様化する国際化社会の中で、日本の農業のあり方が今問われています。特に秋田県にとって農業は、県の未来を大きく左右する、大切な柱の一つです。価格競争で勝ち目がないのなら、品質志向・本物志向へ切り替え、「秋田県産“のむ”トマト」の例にあるように、「ちゃんとした物をちゃんと届ける」ことを信念をもつて続けていけば、秋田の農業、延いては日本農業の未来は明るいと私は信じて

